

1 ① And the **list** of questions goes on.// Should we count the verb, the adjective, the noun, and other forms of a word / as separate words? // In other words, / would **drive, driving, and driver** be counted / as separate words?// Should a **compound** word be counted / as one word / or should each of the words in it be counted separately?// **How about** the huge number of **technical** and **scientific terms**?// **Finally,** / <to add to the difficulties of counting words>, / we need to consider **new words** [that **are being created** all the time].//

② The **constantly** changing **nature** of language is **frustrating** for anyone <trying to count words>.// **But this is also** [what makes language so interesting].// English, / **like** other languages, / always offers **something new** <to learn>!//

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を、誤っていれば×を記入しなさい。

1. We can ignore new words that are being created all the time. ()
2. People trying to count words may be frustrated because languages never stop changing. ()
3. We can always learn something new about a language. ()

覚えておきたい表現

How about ~? 「～はどうだろう」

ℓ.5 : **How about** the huge number of technical and scientific terms? 「膨大な数の専門用語や科学用語はどうだろう。」

・How about ~? : 「～はどうだろう」と相手の意見を求めたり、勧誘したりする表現。～には名詞や動名詞などがくる。What about ~? と同一表現。

Ex. "Can we meet at the library?" "Hmm, **how about** at the gym?" 「図書館で会えないかな。」「うーん、体育館ではどうだろう。」

受動態の進行形 (be 動詞+being+過去分詞) 「…されている (されていた)」

ℓ.7 : we need to consider new words that **are being created** all the time 「私たちは絶えず生み出されている新語を考慮に入れる必要がある」

・関係代名詞 that の後に続く are being created は、受動態の進行形 (be 動詞+being+過去分詞) である。「…されている (されていた)」と訳す。

Ex. When I walked along the river, the bridge over the river **was being built**. 「私とその川沿いを歩いていた時、その川にかかる橋は建設中だった。」

something+形容詞+to do 「何か～な…するもの」

ℓ.11 : English, like other languages, always offers **something new to learn!** 「英語は、他の言語と同様に、学ぶべき新しいことをいつも提供してくれるのだ！」

・something のように、-thing で終わる名詞を修飾する語はすべて後ろに置かれる。不定詞の形容詞用法も

something to tell you 「あなたに話すこと」のように something の後ろにくるので、形容詞と不定詞の両方で -thing を修飾する場合は、-thing + 形容詞 + to do の順番になる。

Ex. I want **something hot to drink**. 「何か温かい飲み物が欲しいな。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

① 英単語を数える際の問題のさらなる事例

・1つの語の動詞、形容詞、名詞などを別々に数えるべきか。

◆ ℓ.2 **In other words** 「言い換えれば：言い換え」

(例) : drive, driving, driver など

・複合語を1つと数えるべきか、あるいは別々に数えるべきか。

・膨大な専門用語や科学用語はどうするか。

◆ ℓ.6 **Finally** 「最後に：列挙・追加」

・次々と生まれてくる新語も考慮に入れるべき。

② 言語の面白さ

言語の変化し続ける性質 → 単語を数える人はいらいらする。

◆ ℓ.10 **But** 「しかし：逆接」

◆ ℓ.10 **also** 「また：列挙・追加」

(主張) その性質が言語の面白いところだ。

(理由) 英語はどんどん学ぶべき新しいことが出てくるため。

◆ ℓ.11 **like** ~ 「～のように：類似」

→ 他の言語と同様である。

背景知識

●辞書に載せるべき単語についての争い

「全語掲載をうたう辞書」の1つに『ウェブスター新国際英語辞典第3版』(1961年)がある。現在の日本の英語教育はアメリカ英語が中心だが、アメリカ英語をイギリス英語と異なるものとして確立させるのに貢献したのが、この辞書の編纂者ノア・ウェブスターである。彼はアメリカ自前の最初の辞書となる『アメリカ英語辞典』を編纂した。この業績の系譜を引くのが『ウェブスター国際英語辞典』(1890年)で、その出版物としての現行版が『ウェブスター新国際英語辞典第3版』となる。この辞書は、現代アメリカ英語の慣用的用法を客観的に記述し、約45万語の収録語数を誇る。

しかし、この『ウェブスター第3版』は出版当初、アメリカ国内のジャーナリズムなどから大いに批判を受けた。当時、『ウェブスター新国際英語辞典第2版』(1934年)がアメリカで「最高の権威」を持つ辞書ととらえられていたこともあり、例えば、ain't (am not / aren't / isn't などの略)の収録など、「正しくない英語」を権威ある辞書に載せるとは何事か、などという批判を浴びた。また、のちにウェブスターに競合する辞書を出版する、アメリカン・ヘリテージという雑誌のオーナーなどは、「よい英語」を守るためには『ウェブスター第3版』の版元を買収して、辞書の出版を食い止めようと試みたほどだった。辞書の規範性を重視するか、現代語の記述を重視するかでこのような争いが起こったのである。

【深めたい人に】：本吉侃『辞書とアメリカ 英語辞典の200年』(南雲堂、2006年)